

「情報公開で判明した熱研の施設管理実態に関する
公開質問状」と、これまでの長崎大学の対応について
(概要)

熱帯医学研究所における安全点検記録に関する経緯

H27年3～4月 勝俣隆氏より、熱帯医学研究所における平成25年度分の安全点検記録等について文書開示請求があり、長崎大学から、勝俣氏に文書を提出。

- ・ 公開質問状では、BSL-3施設の点検記録を公開請求したとされていますが、もともと勝俣氏から請求があったのは、熱帯医学研究所の全記録です。そのため、熱帯医学研究所は、BSL-3施設だけではなく、BSL-2施設の記録文書も提出しています。したがって、公開質問状でのご指摘には、BSL-2施設に対するものも含まれています。また、勝俣氏からは平成25年度分に限った点検記録の請求がなされています。

H28年7月24日 木須委員より、勝俣氏ほかの皆様との共同責任で、地域連絡協議会議長及び各委員に、「情報公開で判明した熱研の施設管理実態に関する公開質問状」を送付。また、報道各社にも送付。

8月1日 木須委員より、地域連絡協議会議長及び各委員に、木須委員の「安全点検記録が平成25年分しかない」と言う批判については取り下げると連絡。

8月2日 木須委員ほかの皆様により、公開質問状に関する記者会見を長崎県庁にて実施。

公開質問状の指摘と、熱帯医学研究所の回答概要①

BSL-2施設における別々のオートクレーブの定期的な点検記録表

Room 238
(L31-4)

A-1

設備等点検記録表(オ

森田公

施設名		安全責任者	有吉 紅
設備名	オートクレーブ	点検者	
点検項目	点検事項	平成24年/12	
		点検結果	
1	缶体	腐食・亀裂	良・否
	缶体フタ	腐食・亀裂	良・否
2	アーム	腐食・亀裂	良・否
	アームガイド	腐食・亀裂	良・否
3	ボルト・ねじ	ゆるみ(アーム、アームガイド等)	良・否
4	缶体フタパッキン	亀裂・ひび割れ	良・否
5	安全弁	腐食・亀裂	良・否
	安全弁周辺	蒸気が漏れた跡	良・否
6	温度	上昇確認(温度確認テープ)	良・否
7	圧力	上昇確認	良・否
《備考》			

記録表(オ

森田公

有吉 紅

平成24年/12

点検結果

良・否

良・否

良・否

良・否

良・否

良・否

良・否

良・否

良・否

良・否

指 摘

別のオートクレーブの点検記録表なのに丸印の形が全部同じであり、最初から良に丸をつけた様式を使っているのではないか。

⇒ 点検結果が「良」ありきで記録をとっているのではないか。

回 答

当時の点検者に直接、点検はなされていたのは確認しましたが、点検記録の作成手順に改善を要する点がありました。平成28年度から点検記録の記載方法、保管管理方法を改めます。

公開質問状の指摘と、熱帯医学研究所の回答概要②

○ BSL-3施設の空調設備におけるHEPAフィルターの性能試験(外部専門機関への委託)

人工的にウイルス大の粒子を発生させて、粒子を含む空気をフィルターに通した場合、粒子をどれだけ減らすことができるかの効率を調べることで、フィルターの機能を点検するものです。

効率は、「 $効率 = 1 - 2次側測定値 / 1次側測定値$ 」という計算式で計算します。

指摘① 全部数字が同じなのはおかしい。

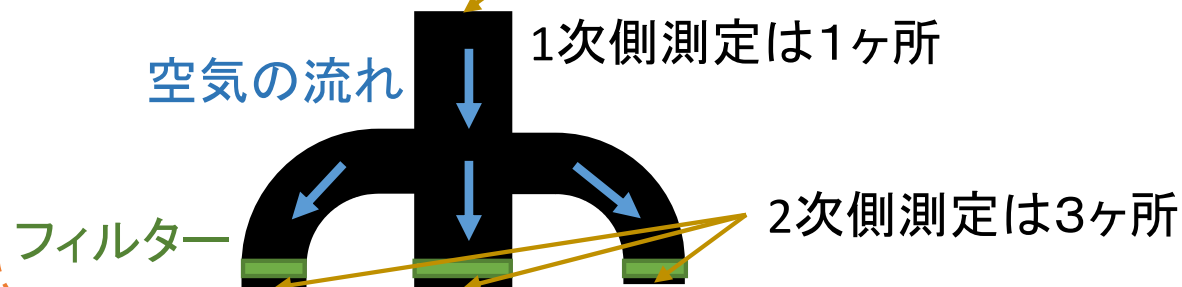
測定日	部屋名	測定フィルタ	吸引量	対象粒径	1次側測定値	2次側測定値	効率	判定
2月26日	BSL3 熱帯細菌実験室	①	1cf	0.3 μm	967496	25	99.9999%以上	可
	BSL3 熱帯ウイルス実験室	①	1cf	0.3 μm	967496	51	99.9999%以上	可
		②	1cf	0.3 μm	967496	44	99.9999%以上	可

指摘②

表の数字で効率を計算すると99.9999%にならない。99.9974%になる。

回答①

測定箇所の配置はこのようになっています。



回答②

外部専門機関の検査報告書の誤記であり、差し替えを依頼しておりませんでした(ただし、HEPAフィルターの合格基準は99.97%であり、合否判定が「可」であることに変わりはありません)。

公開質問状の指摘と、熱帯医学研究所の回答概要③

指摘 BSL-2施設に設置されたオートクレーブの「安全弁」の項目について、安全弁なしと書いたまま3年間たっているが、安全弁なしで設備を使い続けたのか？

回答 当時の点検者等に直接確認したところ、安全弁が装着されているのは確認していたとのことですが、本来は、「良」に丸印をつけるべきでした。

指摘 BSL-2施設の設備点検記録に、書き間違いなのに、訂正印が押してない。

回答 ご指摘のとおり、訂正印を押すべきでした。

指摘 BSL-3施設の設備について、機械のトラブルが結構起こっている。BSL-4施設は安全という長崎大学の説明は心もとない。

回答 異常が起こっても他の設備がバックアップをとるようにしています。BSL-3施設の設備もそのような措置を行っていますし、BSL-4施設でもそのようにいたします。

指摘 きちんとした安全点検が行われているか疑わしいのが実態。「安全を至上価値とする体質」が備わっていないのだから、BSL-4施設の運営責任を担うにふさわしくない。

回答 いかに安全管理上問題がないとはいえ、一部に今回のご指摘のような記載が自主点検記録にあったことは否定できません。

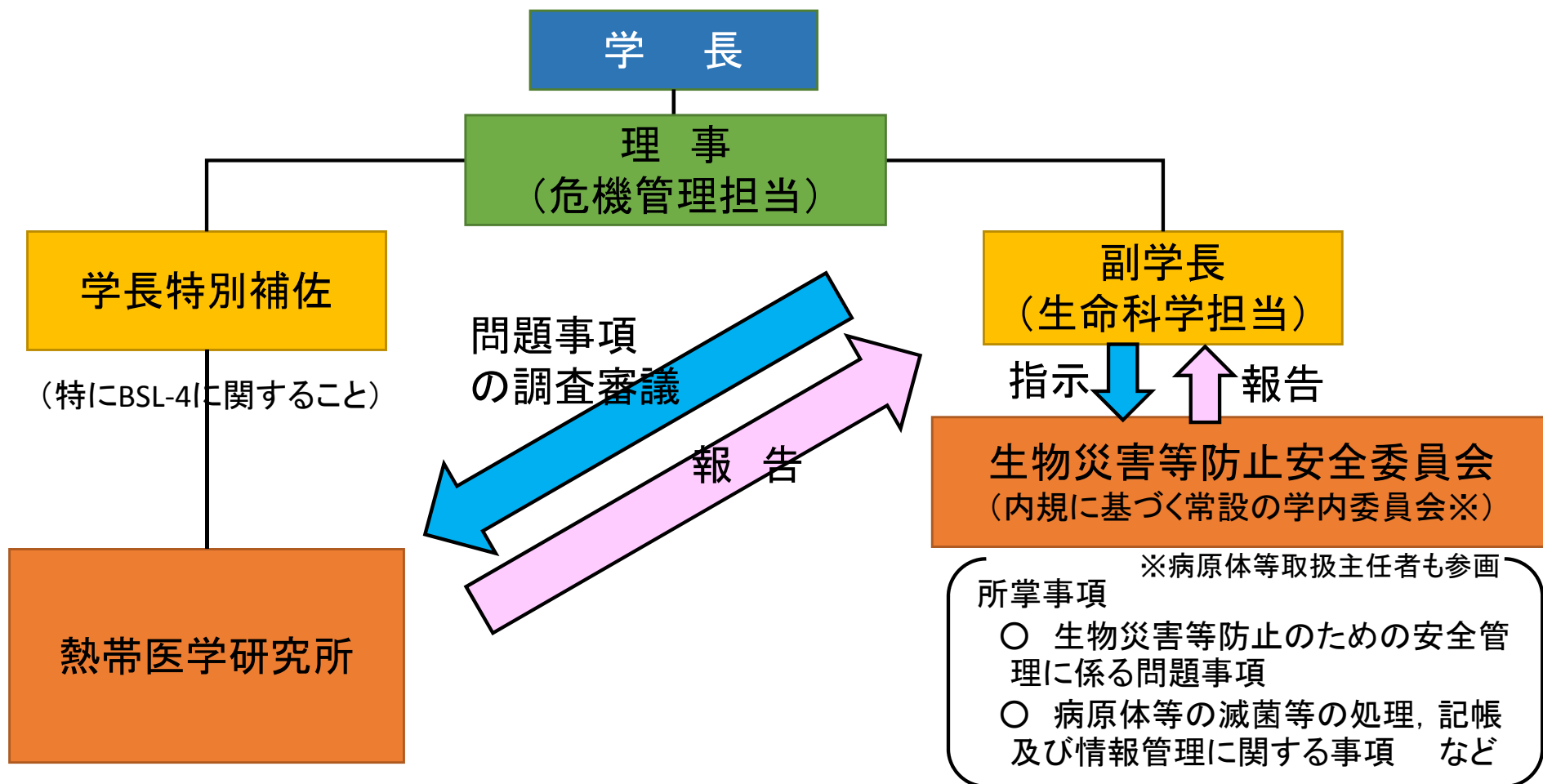
そこで、平成26年度から、点検記録の作成方法を改めたほか、平成28年度から、単年度ごとの記録書式に改めた上で、さらにその保存・管理を事務部で一元化することにいたします。

なお、現在検討中のBSL-4施設の運営管理については、熱研とは別個の組織が設置され、国の積極的な関与の下で、地域に対する透明性を含めBSL-4施設の安全確保に万全を期することとなります。

※ 以上は概要であり、詳しくは、資料4-2及び資料4-3の公開質問状及び熱帯医学研究所の報告書をご参照ください。

今後の調査審議について

- 本件については、現在、学内において、下記の図のと通りの体制で、調査検討を実施している。
- 熱帯医学研究所の報告書については、常設の学内委員会である「生物災害等防止安全委員会」においてさらなる調査審議を行っている。今後は、今回ご指摘を受けたところのみならず、熱帯医学研究所の病原体管理全体について問題がないかチェックするとともに、課題解決のための改善策を策定する。
- さらに、理事(危機管理担当)が、熱帯医学研究所の報告及び生物災害等防止安全委員会の調査審議の報告を受け、両者の検討内容をチェックする。



公開質問の一部取り下げとお詫び

地域連絡協議会議長 調 漸 様
地域連絡協議会委員 ご一同 様

2016年8月01日
地域連絡協議会公募委員 木須博行

前略

去る7月26日付の公開質問状において、『安全点検記録が平成25年分しかない』旨の批判と関連質問を行いました。公開請求は平成25年度分のみであり、『安全点検記録が平成25年分しかない』と言う批判は、この資料からでは長崎大学にとって全くいわれないものでした。

従って、当該公開質問状におきまして、『安全点検記録が平成25年分しかない』と言う批判に関連する部分は取り下げさせて戴きます。

この間違いの原因は、主に公開請求者【長崎大学バイオハザード予防研究会】の記憶違いや不手際によるものであり、さらに、「長崎大学バイオハザード予防研究会」と委員である私・木須の間の連絡上のミスが重なったために生じた誤りでした。これにより、貴大学の名誉を大いに傷つけたことを深くお詫び申し上げます。

この件に関しまして、明日記者発表を行う予定ですが、その場で同研究会の代表である、勝俣隆の方から、公式に謝罪させて戴きます。

ただし、それ以外に関わる質問につきましては、取り下げるものではございませんので、ご了承ください。

最後に、『安全点検記録が平成25年分しかない』旨の批判に関しまして、貴大学に多大なるご迷惑をおかけしたことを重ねて深くお詫び申し上げます。

敬具

長崎大BSL

「安全管理に懸念」

教授らが公開質問状

長崎大の教授らがつくる「長崎大学バイオセーフティ研究会」(勝原隆代表)は2日、県庁で記者会見し、長崎大熱帯医学研究所(長崎市坂本一丁目)の病原体を扱う実験施設でさまざまな安全管理が行われている疑いが強いとして、大学に公開質問状を提出したと発表した。

長崎大は最も危険なウイルスを研究するバイオセーフティレベル(BSL)4施設の坂本設置を目指している。同会の勝原代表は「安全管理者として適格性を欠く」と批判した。

同会は昨年3月、実験施設の安全管理に関する記録類を大学に情報公開請求して入手。同会によると、実験室2008室の設備点検表は、廃液を適切に処理する設備の状態を「良・否」で

チェックする欄に手書きで30カ所の丸印を付けていたが、設備3台分の記録はいずれも丸印の位置と形状が全く同じで、1台分の記録をコピーして使い回したと断定した。病原体を冷凍保管する設備の点検表も「見本」の文字が記されていたり、点検日を書き改めているなど不審な点があった。

長崎大の内規は、病原体を扱う実験室は年1回以上定期点検し、記録を5年間保存するよう定めている。だが、同会に開示した2038室の設備点検表は2012年からの3年分だけだった。同会は「点検表を保管しておらず、偽って作成した記録を出してきたのではないか。設備点検自体をしていない可能性もある」とし、内規違反ではないかと指摘している。

長崎大によると、2008室は「レベル2」の病原体を扱う実験室。「実態を調査した上で公開状に回答した」としている。

(松原博)